



平成 27 年 11 月 13 日

各 位

会社名 株式会社 ディー・エル・イー  
代表者名 代表取締役 椎木 隆太  
(コード番号：3686 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 CFO 兼 経営戦略統括本部長 川島 崇  
(TEL. 03-3221-3980)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 8 月 14 日に公表いたしました平成 28 年 6 月期（平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日）の通期業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 28 年 6 月期 通期業績予想の修正（平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日）

単位：百万円	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	2,703 ～3,244	209 ～477	182 ～450	122 ～301	7.40 ～18.25
今回修正予想（B）	2,919	233	208	139	8.38
増減額（B-A）	△325 ～215	△244 ～23	△241 ～26	△161 ～17	
増減率（%）	△10.0 ～8.0	△51.2 ～11.1	△53.7 ～14.3	△53.7 ～14.4	
（ご参考）前期実績 平成 27 年 6 月期	2,018	331	338	220	13.34

#### 2. 業績予想修正の理由

当社は、平成 28 年 6 月期の業績予想については、前回公表時にはレンジ形式で開示しておりましたが、今回新たに特定数値による業績予想値を算出いたしました。なお、新たな予想値は前回公表した業績予想のレンジの範囲内となっております。

当社は、ソーシャル・コミュニケーション領域においては、主にキャラクター等の IP（著作権・商標権等の知的財産権）の価値向上の成長度合いが、IP クリエイション領域においては、主に大型映像制作案件の受注状況の変動が業績に与える影響が大きいことを勘案し、平成 28 年 6 月期通期の予想をレンジ形式に

て開示しておりましたが、現在の事業状況に基づき、特定数値による平成 28 年 6 月期通期の業績見込みに修正いたします。

前回公表時の業績予想の上限・下限を、以下のように想定しておりました。

(1) 上限

- ① ソーシャル・コミュニケーション領域：当社保有 I P は、一定水準以上の価値成長率を見込む(※1)
- ② I P クリエイション領域：見込みの大型映像制作案件が、概ね順調に受注することを見込む

(2) 下限

- ① ソーシャル・コミュニケーション領域：当社保有 I P は、過去トレンドを維持した安定的な価値成長率を見込む
- ② I P クリエイション領域：見込みの大型映像制作案件のうち、特に海外案件については期ズレ等を勘案し予想には見込まない

(3) 上限・下限共通

新規事業投資：TOKYO GIRLS COLLECTION (T G C) 関連への新規投資からの収益は、不確実性を勘案し予想には見込まない(なお、過去実績から合理的に算定できる商標権使用収入などは予想に見込む)(※2)

現在の事業状況は、以下のとおり進捗しており、業績予想の想定を修正いたします。

『秘密結社 鷹の爪』に関しては、日本初のエンターテインメント型攻城戦ツアー「鷹の爪団の SHIROZEME」といったリアルイベントや人気月刊マンガ雑誌でのマンガ連載開始など、従来のアニメーションから展開領域を拡大、『パンパカパンツ』に関しては、初のナショナルクライアントへのプロモーションサービスの開始、劇場公開作品の全国 69 館での上映、大手ショッピングモールへの販路拡大など展開領域を拡大、『TOKYO GIRLS COLLECTION』に関しては、人気 SNS 上の公式動画配信サービスでの視聴者数が約 100 万人を達成するなど、その他の I P を含め、当社保有 I P は価値を順調に向上させております。

そのような I P の価値向上により、T G C 関連への積極的な新規事業投資があったものの、本日発表の第 1 四半期決算において、売上高 591 百万円(前年同期比 67.8%増)、営業利益 26 百万円(前期は 20 百万円の営業損失)、経常利益 23 百万円(前期は 17 百万円の経常損失)、当期純利益 15 百万円(前期は 11 百万円の当期純損失)と増収増益となりました。

一方で、見込みの大型映像制作案件のうち特に海外案件に関しては、海外パートナーとの条件交渉は順調に進んでいるものの、現時点においては今後合意される納品時期次第で期ズレを起こす可能性があること及び、T G C 関連への新規事業投資に関しては、事業機会は複数あるものの、現時点においては収益化の時期に不確実性があることから、それぞれ当期業績予想に見込むことは合理的ではないと判断いたしました。

以上のように想定を見直した結果、平成 28 年 6 月期通期につきましては、売上高 2,919 百万円(前年同期比 44.6%増)、営業利益 233 百万円(前年同期比 29.6%減)、経常利益 208 百万円(前年同期比 38.3%減)、

当期純利益 139 百万円（前年同期比 36.5%減）とし、事業拡大により増収となるものの、TGC 関連への積極投資により減益となる見込みであります。

(※1) 当社は、IP を活用して様々な事業領域にスピーディに展開し、IP の価値を高めることで短期・中長期の業績向上を図っております。具体的には、IP を活用して、セールスプロモーション、アプリやメッセンジャーアプリ向けスタンプ、グッズやイベント、劇場公開の興行収入、DVD 販売等の短期的な業績拡大を図っております。そして、このような様々なサービス提供自体を IP の露出手段とも捉え、さらなる IP 価値の向上により中長期の業績拡大を図っております。

なお、IP の活用における展開スピードの速さと領域幅の広さは、当該 IP 価値の成長率と相関関係があるため（ヒットすれば一気に広がるなど）、業績予想に当たっては慎重に検討しております。

(※2) 当社は、TGC の商標権者として、東京ガールズコレクション実行委員会が主に年 2 回開催する日本最大級のファッションイベント「東京ガールズコレクション」へ商標権の使用許諾を実施しております。当該イベントは過去 10 年以上継続しているため、イベントに直接的に関連する収益に関しては、過去実績から合理的に算定し予想に見込んでおります。

一方、当社が商標権を取得した目的は、従来のイベントからの直接的な収益に限らず、TGC が持つ高いブランド力を弊社がこれまでに培った IP を活用した事業展開ノウハウを軸に国内外、オンライン・オフラインに関わらず事業の種を創出していくことにあります。そのため平成 28 年 6 月期は積極的な新規事業投資を計画しており、投資コストに関しては予想に見込んでおりますが、収益に関しては不確実性があることから予想には見込んでおりません。

(注) 上記予想値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によりこれらの予想値と異なる場合があります。

以上